

## 第2学年 社会科学習指導案

指導者 井上 洋平

### 1 単元 江戸幕府の成立と鎖国

#### 2 単元の目標

- (1) 江戸幕府の政治、身分によって異なる人々の暮らし、鎖国下の対外関係に対する関心を高め、意欲的に追究しようとする。  
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立及び農村の様子、鎖国下の対外関係や江戸幕府の政治の特色について多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現することができる。  
(社会的な思考・判断・表現)
- (3) 江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立及び農村の様子、鎖国下の対外関係などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりすることができる。  
(資料活用の技能)
- (4) 幕府と藩による支配が確立したことを理解し、その知識を身に付けることができる。  
(社会的事象についての知識・理解)

#### 3 単元について

##### (1) 教材観

本単元は徳川家康、秀忠、家光の江戸幕府による諸政策によって、長期政権の基礎が築かれたことについて学習する。江戸幕府の特色は、応仁の乱以降の戦乱が続いた時代から、大きな戦乱のない時代を迎えたことに見られる。政治では、武家諸法度や幕藩体制により、幕府が大名や武士を統制する仕組みをつくり上げた。経済では、多くの幕領と重要都市や鉱山等を直接支配したり、農民に年貢を納めさせる仕組みを確立させたりすることで、経済の基盤を築いた。外交では、禁教令や天草・島原一揆を経て、鎖国体制を確立し、幕府の統制の下で交易や交流が行われた。これらの政策により、江戸幕府の基盤が築かれたことが大きい。

##### (2) 生徒の実態

生徒は、小学校で、徳川家康や家光の肖像画や人物年表、エピソードなどから人物の業績を考える学習や、大名列や出島、絵踏の資料を活用して江戸幕府の政策を調べる学習を行っている。事前のアンケートの結果から、江戸時代初期の「武家諸法度」や「参勤交代」、「鎖国」などの諸政策についてはある程度理解しているものの、それらの諸政策が鎌倉幕府や室町幕府などのそれまでの武家政権とは違い、260年余り続く長期政権の基礎の一因になっていることを理解している生徒はほとんどいないということが分かった。

##### (3) 指導観

指導に当たっては、徳川氏が江戸時代初期に行った様々な政策について、政治、経済、外交の視点でとらえ、260年余りも続いた長期政権の基礎がどのようにつくられたかを追究させたい。単元導入時には、これまでの鎌倉幕府、室町幕府との政権期間の違いに気付かせ、「江戸幕府はなぜ260年余りも安定した政治体制を続けることができたのか」という単元を貫く課題を設定する。毎時間の授業において、幕府の大名や朝廷、民衆を統制するための政策（政治）や、幕府の経済を支える仕組み（経済）、統制の中にも交易や交流を行った外交政策（外交）について、年表や幕府の組織図、地図、史料に基づく統計資料など、具体的な資料を読み取らせ、解釈させたい。

本時については、江戸幕府が大きな戦乱のない社会を築きあげたことに効果が最も大きかった政策を既習した政治面、経済面、外交面から選択させる。そして、その政策が重要であると判断した理由を、選択した資料（根拠）を基に考察させ、グループで説明する活動を取り入れる。また、グループ活動での相互評価を通して、自己の主張に不足する視点や新たな視点を獲得させ、自己の主張の見直しをさせることで、生徒の思考力・判断力・表現力を高めさせたい。

#### 4 指導計画（6時間扱い）

時間	学習活動	主な評価規準【評価方法】	(1)	(2)	(3)	(4)
1	・江戸中期の年表を確認しながら学習の見通しをもち、単元を貫く学習課題を設定する。	・年表を確認し、江戸幕府や日本全体に何が起きたのかを予想し、進んで意見交換をしようとしている。 【観察・発言】	◎		○	
2	・江戸幕府が大名を統制する仕組みや大名の配置を行ったことを資料から読み取る。	・おもな大名の配置図から江戸幕府の大名統制のねらいを読み取ることができる。 【ワークシート】	○		◎	
3	・江戸時代の身分制度のねらいと人々の生活の様子を調べ、まとめる。	・江戸時代の身分制度と人々の生活の様子を理解し、その知識を身に付けることができる。 【ワークシート】		○		◎
4	・江戸幕府が、貿易の振興から鎖	・江戸幕府が交易の振興から鎖国へと方針を変更し	○	○		

	国へと外交方針を変更した理由を考察する。	た理由を、様々な資料を基に考察し、自分の考えを明確にしながら表現することができる。 【発表・ワークシート】			
5	・江戸幕府が、鎖国政策のもとで行った外国との交易や交流について調べ、まとめる。	・幕府の鎖国政策の下で様々な国や地域と交易や交流が行われたことを理解し、その知識を身に付けることができる。 【ワークシート】	○		◎
6 本時	・260年余り続いた江戸幕府の基盤となる最も効果があった政策について論述する。	・長期政権の基盤となった最も効果的な政策について根拠を明確にしながら論述することができる。 【ワークシート】	○	◎	

## 5 本時の展開

### (1) 目標

260年余り続いた江戸幕府の基盤となる最も効果があった政策について、資料を解釈し、根拠を明確にしながら自分の考えを論述することができる。

### (2) 準備・資料

単位時間構造図、ワークシート、考えをまとめるアシストシート、パソコン、プロジェクター、実物投影機

### (3) 展開

○は評価の視点

学習活動・内容	指導の手立て
1 本時の学習課題を確認する。  260年以上も続いた長期政権の基盤となった最も効果的であった政策は何だろうか。	・本時の流れが記された単位時間構造図を配付し、本時の学習課題と学習方法を確認することによって、学習の見通しがもてるようになる。
2 学習課題を追究する。 (1) 江戸幕府が260年余りも続いたことに効果が大きかったと思う政策を政治、経済、外交の視点から選択する。 (2) 選んだ視点に関する資料の選択・読み取りを通して、選択した政策が重要であると判断した理由を考える。 (3) グループ内で自分の考えを発表し、相互評価を行う。	・前時までの学習内容の振り返りを促すことで、幕府が行ってきた様々な諸政策が260年余り続いたことと関連していることに気付くことができるようになる。 ・(2)の活動でつまずいている生徒には、「考えをまとめるアシストシート」を参考にするよう助言し、解決できるようにする。 ・ワークシートを活用した発表を促すことで、資料の読み取りや選択した政策が重要であるという理由を明確にして発表できるようになる。 ・相互評価を行うことによって、誰がどのような考えをもっているのかを把握し、自分の考えを見直したり、付け加えたりできるようになる。
3 学習課題についてまとめる。 (1) 学習課題について、根拠を示しながら自分の考えを文章にまとめる。 予想できる生徒の記述例	・文章にまとめる際には、根拠としている資料を明確に示すことができるようになる。  ○260年余り続いた江戸幕府の基盤となる最も効果があった政策について、幕府が行ってきた諸政策を様々な視点から考察し、根拠を示しながら自分の言葉でまとめることができたか。 【ワークシート】
4 本時の学習を振り返る。 (1) 自分の主張の変容を共有し合う。	・思考力が高まった例として、グループ活動によって、自分の考えが変わったり、付け加えたりしてまとめることができた生徒を抽出し、発表させることで、本時の学習を振り返られるようになる。